

令和3年度 磐田市立磐田第一中学校 学校評価書

	目標	評価指標	自己評価	考察や改善点等	学校関係者評価委員より							
<p>「志をもち しなやかに たくましく生 き抜く生徒の 育成」を目指 す教育活動の 推進</p>	<p>“ことば”と“そうい （「相違」「総意」「創 意）」を大切にす る学校</p> <p>(1) 一人一人の特性に 応じたインクルーシ ブ教育の充実と組織 的な教育支援の展開</p> <p>(2) 学びを深める対 話「Nスタイル」活 用による新学習指導 要領具現に向けた授 業改善</p> <p>(3) コミュニティ・ス クールを基盤とした なかいずみ学府小中 一貫教育の推進</p> <p>(4) 保護者、地域へ の情報発信と、地域 の教育力を生かした 教育活動の推進</p>	1	学校教育目標「志をもち しなやかに たくましく生き抜く生徒の育成」を意識して教育活動に取り組んでいる。(教師)	A	<p>分析の数値は、左からR1, 2学期→R2, 2学期→R3, 2学期</p> <p><b>「目指す子どもの姿や教育内容の理解」</b> 分析項目5 保護者 83%→80%→79% 学校で目指している子どもの姿や教育内容について、多くの保護者が理解している。しかしながら、コロナ禍で学校を参観する機会が減り、学校の様子が見えにくく感じている保護者が増えていると感じる。今後も学校・学年・学級だより、ホームページ等を有効活用しながら、学校の教育活動の情報を保護者の方や地域の方に広く伝えていきたい。</p> <p><b>「個に応じた支援と「確かな学力」が身に付く授業の実践」</b> 分析項目6 保護者 90%→89%→84% 項目7 生徒 94%→93%→94% 項目8 生徒 91%→87%→91% 項目9 教師 83%→83%→73% コロナ禍の中、前年度からの授業の進度調整を行いつつ、どの教科においても「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善に取り組んできている。基礎基本の定着についてさらに指導方法を工夫していく。</p> <p><b>「あいさつ」</b> 分析項目10 教師 79%→93%→78% 生徒 92%→91%→91% 保護者 88%→83%→77% 生徒会が毎週火曜日に楠広場や校門、昇降口であいさつ運動を実施している。PTAあいさつ運動は、コロナの影響で計画通りの実践ができなかった。生徒の挨拶の保護者評価が下がってきているが、朝だけでなく、廊下ですれ違う際の「こんにちは」の挨拶が自然にできる生徒がほとんどである。気持ちの良いあいさつを心掛け、ともに笑顔が溢れる学校を目指していきたい。</p>	2	生徒が自己の生き方や進路について、保護者とじっくり話し合う機会をもつよう働きかけている。(教師)	A	<p>コロナ感染症の中でも安定した学校運営が展開され、地域の人たちも喜んでいる。今後も磐田の中心校としての自負をもって継続することを願う。</p> <p>項目7「分かりやすく教えてくれる」が94%、項目8「自分の力として身につけている」が91%に対して、項目9「学力が身につけている」が73%というのが気になる。教師の目指す学力の合格ラインが、生徒たちより高いところにあるのか？</p> <p>感染状況がまだまだ大変な中にあっても、充実した教育活動が展開されていることがよく分かった。今後ますますの地域と連携・協働した活動がなされることを願っている。</p> <p>評価指標9 基礎的・基本的な学力の定着について、「基礎的基本的な学力」が評価指標となっているが、現行学習指導要領と照らし合わせると、少しばかり不十分か。「確かな学力」を念頭にした学校教育・授業が求められているので、それに添った形の評価が必要。テストで見えやすい学力ばかりではなく、深い学びを意識した一層高いレベルの学力を指標にする必要がある。</p> <p>「あいさつ」について、地域では来年度のテーマとして、家庭地域での「あいさつ」を呼びかけていく。生徒との絆に結びつけられたい。</p> <p>コロナ禍で納得のいく授業実践に苦慮している様子。「あいさつ」について保護者は礼儀に物足りなさを感じているのか。</p>	3	“ことば”と“そうい（「相違」「総意」「創意）」を大切にす る学校づくりを行っている。(教師)	A
		4	目指す資質・能力である「共生」「自律」「自立」を育成している。(教師)	A								
		5	学校が目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っている。(保護者)	B								
		6	教師は、子どものことについての相談に適切に応じている。(保護者)	B								
		7	先生は分かりやすく教えてくれる。(生徒)	A								
		8	学んでいることが自分の力として身につけている。(生徒)	A								
		9	子供は、基礎的・基本的な学力が身につけています。(教師)	B								
		10	進んで気持ちの良いあいさつをしている。(生徒、保護者、教師)	B								
		11	小中一貫教育で取り組んでいる内容を知っている。(保護者)	B								
		12	学校は、保護者や地域の方の協力を得て教育活動をすすめている。(保護者)	A								

				R1	R2	R 3			
自律	自ら考え、判断し行動する力	・進んで先生に聞いたり自分で調べたりする(85%)	13	生徒	79.7	79.3	78.9	B	自ら考え、判断し行動する力を育むための、「生徒が進んで聞いたり自分で調べたりする」項目については、生徒、保護者ともに数値目標に達していない。特に、保護者の評価についてはここ3年間で下降傾向にある。逆に、教師の評価は上がっており、そこにずれがある。本校の生徒信条の一つに「私は知識を磨くため、自主的に学習する生徒になります」とある。自ら学ぼうとする姿勢は本校が大切にしているものであり、授業の導入から学習課題を提示するまでの流れについてさらに力を入れ、生徒の意欲を引き出す授業展開を研修していきたい。また、「授業でじっくり考えたり表現したりする」項目については、生徒の評価が数値目標に達成しているため、思考を深めたり互いに学び合ったりする場面を意図的に設定していきたい。
				保護者	69	61	56.2		
				教師	58.3	75.9	76.9		
		・授業でじっくり考えたり表現したりする(90%)	14	生徒	87	86.5	90.1	A	
				保護者	未実施	未実施	未実施		
				教師	87.5	82.7	88.5		
共生	多様な考えを尊重し合い、協力して課題を解決する力	・相手の気持ちを考えた温かな言葉遣いをしている(95%)	15	生徒	92.2	90.8	91.4	B	温かな言葉遣いに関しては、昨年度と比べ教師の評価が低い。学校生活において、相手を傷つける言葉や、接し方が見られた場合、その場で指導していきたい。また、道徳科の授業を中心に、思いやりの心や礼儀、公共の精神、集団生活の充実など、人としての生き方を深めることを意識できる教育活動を改めて大切にしていく必要がある。 お互いにルールを守り協力するに関しては、教師の100%に対し、生徒・保護者の評価は低い。生徒の良い表われを機を逃さず称揚し、自己有用感を高めていきたい。
				保護者	91	87.1	86.8		
				教師	91.6	96.7	85.2		
		・お互いにルールを守り協力する雰囲気がある(95%)	16	生徒	92.7	90.2	89.1	B	
				保護者	93.2	85.5	81.3		
				教師	95.8	100	100		
自立	目標に向かって、粘り強く挑戦し続ける力	・目標に向かって粘り強く取り組んでいる(80%)	17	生徒	96.1	89	90.8	B	学校では、学級における居場所づくり、絆づくりのために、学級内で一人一人に役割を持たせ、学級を機能させている。役割を確実に果たすことで、生徒の自己有用感が高まり、学級での存在感も持てるようになっている。今後も役割を果たせた生徒を大いに認め、励ましていきたい。 合唱コンクールを通して、歌うことの楽しさを味わっている生徒が多い。また、体育大会もコロナ禍で、様々な制約がある中での開催であったが、素晴らしい姿を見ることができ、生徒の満足度も高かった。初めての春開催で課題もあったが、来年度へ生かしていきたい。 生徒と教師が目標を共有することで、生徒は部活動に全力で取り組み、充実した活動ができた。
				保護者	未実施	73.1	69.1		
				教師	未実施	86.7	74.1		
		・学校行事や部活動に集中して取り組んでいる(95%)	18	生徒	96.2	96.4	96.4	A	
				保護者	77.1	94.7	90.3		
				教師	91.7	96.7	100		
<p>教室では1対1で会話することがあまりできない中、自分自身で探究するためのツールとしてもギガスクールは有効。期待したい。</p> <p>自ら考え判断する力は日々の学習や生活の中で培っていくもの。対話活動が思うようにできない状況だが、話し合い活動で得たり感じたりする自分と他者との違いや思いやりを一緒に学び合える経験は、共生や自立につながる大切な機会である。</p> <p>収束の見えないコロナ禍。この2年間とともに素顔を見たことがない人が何と多いことか。転入された先生方や入学してきた子供達の口元の表情が分からぬまま次年度を迎えそうだ。無理せず、諦めず、確実な教育実践を積むことを期待する。</p> <p>厳しいコロナ感染症の心配の中、見事に対応し、立派に事業報告がなされ大変でした。出来ることがあれば声かけを。</p> <p>コロナ禍、差別・偏見といった生徒間の心の問題もある。大変だが、対応を。</p>									

学校関係者評価を受けてのまとめ

ICTを効果的に活用し、コロナ感染症対策や個に応じた支援を講じながら、「確かな学力」が身につく「主体的・対話的で深い学び」を目指して授業改善をすすめます。保護者や地域の皆様と目指す生徒の姿や教育活動・重点を共通理解するために、情報発信に努め、地域で子どもを共に育てるコミュニティ・スクール体制の安定を目指します。また、生徒の心に寄り添い、安心安全な学校・学級風土を醸成できるよう、きめ細やかな、あたたかい指導、支援、相談に努めます。